村中璃子医師時局講演会

日　時：2025 年 9 月 26 日（金）　19 時 30 分～20 時 30 分
場　所：千葉県保険医協会会議室（Web 併用）
講　師：村中璃子氏（医師・ジャーナリスト）
テーマ：「ポストコロナ時代の『ワクチン忌避』への向き合い方」
共　催：守れる命を守る会

～講師からのメッセージ～

新型コロナ・パンデミックの余波の明けやらぬ 2021 年 4 月、日本では子宮頸がん（HPV）ワクチンの積極的接種推奨が再開した。HPV ワクチンはそれまで約 9 年間にわたり、定期接種に定められたまま勧奨が差し控えられ、接種率が極めて低い状態が続いていた。コロナ期、日本でも新型コロナワクチンに反対する一部市民の姿があった。だが、国民の多くはそこから、ワクチンを忌避することは自分自身や周りの人を、ひいては社会や国全体を危険にさらすことになるという教訓を得たこともあったのだろう。また、誤った情報が広がり始めた時には、医学界は一丸となってそれを否定しなければならないという教訓を HPV ワクチンの経験から医師たちが得ていたこともあったのだろう。日本の新型コロナワクチン接種率は高かった。ただし、2017 年に提起された国とワクチン製造元を相手取った HPV ワクチンの集団訴訟は勧奨が再開した今でも続いており、複数の医師たちが証言台に立って答弁中だ。

ところ変わってアメリカでは、従来のワクチン・感染症行政を揺るがすような変化が起きている。歴史的に見てもアメリカは、パンデミックやテロなど感染症がもたらす脅威を国防問題と捉え、世界でもっとも積極的にワクチン接種を進めている国だった。ところが、ワクチンに否定的な姿勢で知られるケネディ Jr.氏（故ケネディ米大統領の甥）が保健相になると、定期接種の推奨などを決めるワクチン審問委員会（ACIP）で決定した新しい推奨の承認をペンディング。6 月に入ると、ACIP の現委員 17 人全員が解任を言い渡し、ワクチンに反対する研究者らを含む 8 人が任命。新メンバーで開かれた初めての ACIP では添加剤チメロサール入りのワクチンの接種を中止するとするなど、さまざまな「変革」が進められている。弁護士であるケネディ Jr.氏は、市民団体「Childrens' Health Defense の代表を務め、自閉症の原因は麻疹ワクチンであると主張、水道水へのフッ素の添加に反対し、HPV ワクチン製造元に対し薬害を主張する複数の訴訟を起こしていることでも知られている。ケネディ Jr.氏はまた 1 億人の子供にワクチンを提供、1800 万人の命を救ってきた「GAVI ワクチンアライアンス」に対する米国の資金提供の停止を発表するなど、国際保健を揺るがす決定も発表している。

本講演では、パンデミックの際に注目を集め、パンデミックが終わった後もさまざまな形で展開を続ける「ワクチン忌避（Vaccine Hesitancy）」の問題について最新の動向をアップデートすると共に、HPV ワクチンや麻疹ワクチン、ワクチンの添加物の安全性についての科学的評価の確認を行い、科学に基づく医学情報（EBM）を広く伝えていくために、医療者および医学界が果たすべき役割について考える機会としたい。